

# なごや環境大学共育講座

## 里山体験 第一回 カブトムシのお宿

2014年12月13日

前日、少し雨が降って心配していたが  
幸いに天候に恵まれ開催出来ました。

まず、カブトムシの一生の説明を  
行いました。  
お子さん向けの話でしたが、むしろ  
親さんの方が熱心に聞いて見えました。

猪高緑地内を散策してカブトムシの  
お宿の一つに到着しました。  
初めて猪高緑地に入った子もいました。

到着して早速、昨年のおち葉  
(ほとんど腐葉土)の中から  
カブトムシの幼虫を取りだし、  
観察して貰いました。

少し掘ると沢山のカブトムシの幼虫。  
こんなに厚く落葉が溜まっている所は  
殆ど無く、ここがカブトムシにとっては  
絶好の場所だと思われます。カブトムシも  
住宅難のようです。

初めてカブトムシの幼虫を見る人が殆ど、  
その大きさにビックリ。初めはこわごわ  
掌に幼虫を乗せていました。

人間の手はカブトムシの幼虫にとっては  
暑すぎるので、軍手をはめて、直接は  
触らないようにしました。  
落葉の中は外気中よりも暖かく、幼虫に  
とっては迷惑な行為ですので、早々に  
落葉の中に戻しました。



次は来年の食料補給の為に落葉集めです。完全に分解してしまった落葉はカブトムシの食料になりません。毎年、新しい落葉を補給する必要があります。

近くの広場や通り道の落葉を、掃除を兼ねて集めました。放置して置けば、厄介なゴミ、集めてカブトムシのお宿に入れると、大切な食糧です。



子供(小学生以下)用アンケートに、「なんでカブトムシの糞が木の栄養になるのかなー？それを聞きたいです。」という質問が有りました。素晴らしい質問、嬉しくなります。

糞は、軟らかいので木の根がはり易く、細かく消化されているので微生物によって分解され易くなっています。糞は、微生物によって小さな分子に少しずつ分解され植物が養分を吸収できる形になります。植物が育ち、その葉をカブトムシの幼虫が食べます。物質循環が回っています。



集めた落葉は、皆は大きなボランティア袋に入れて運びました。スタッフと親さんはグラウンドシートに乗せて大量に運びました。勿論、皆も手伝います？

お宿に落葉を入れただけではフワフワで落葉は風に飛ばされたり、分解すると直ぐにペチャンコになります。一年分の十分な食料を蓄えるには、押えて更に落葉を入れる必要があります。十分な厚さの落葉を入れてから、皆に落葉の上に乗って、押えて貰いました。



皆はこれが楽しい。フワフワの落葉のベッドです。

実は親も楽しい。  
お母さんも落葉のベッドに乗ってみました。

親子ともども、自然に親しみ、里山を  
肌で感じて頂けたと思います。

来年も沢山のカブトムシが育つと思います。

